

〔長崎市理財部資産経営室からのお知らせです。〕

公共施設の将来のあり方を考える市民対話《三和地区》

❀ 第1回 開催報告 ❀

ご参加いただいた皆さま
ありがとうございました。

日時 令和元年11月16日(土) 15:00~17:00

場所 三和地域センター 大会議室

参加者 地域の皆さん 28人



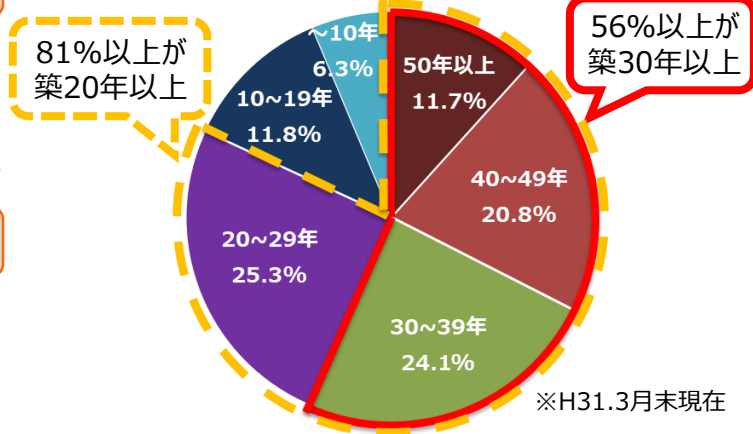
人口減少や少子高齢化が進む中であっても、暮らしやすいまちであり続けるために、三和地区にある公共施設はこれからどうあったら良いのか・・・将来に向けた公共施設のあり方を皆さんと一緒に考えていきたいと思い、市民対話を開催しました。

1 いま起きている“変化”と状況

公共施設が古くなってきています

- ・市の公共施設（建物）の半分以上が建築後30年以上が経過し、施設の老朽化が進んでいます。
- ・今後、修理や建替えの時期を一齐に迎えます。

＜施設の築年数と施設の量（床面積）の割合＞



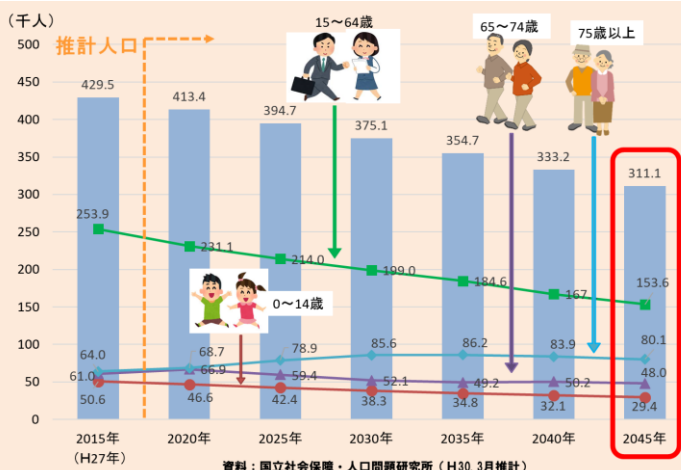
人口減少・少子高齢化が進んでいます

- ・長崎市の人口は、2045年には約31万人にまで減少すると予測され、それに伴い施設の利用者も減少していくことが予想されます。
- ・「働く世代」の人口が大きく減少して**税収が減少することが予想**されます。
- ・今後も高齢化が進み、**福祉や医療にあてる費用が増えることが予想**されます。
- ・このため、**公共施設の修理や建替えにあてる費用は限られてしまいます。**

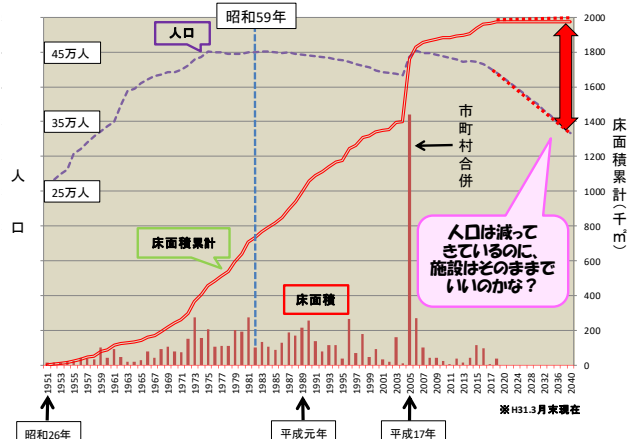
人口は減少しているのに、施設は多いまま

- ・長崎市の人口（紫の線）は、昭和59年をピークに減少していますが、**施設の量**（床面積、赤の線）は増え続けてきました。
- ・**今ある施設を全て持ち続けると、子や孫の世代に大きな負担を残してしまいます。**

＜人口の将来予想＞



＜施設の床面積と人口の移り変わり＞

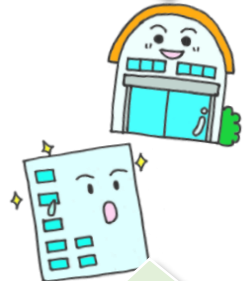


2 時代の変化に対応できる公共施設の見直し

先ほどの内容を整理すると・・・

施設はそのまま維持できるの？

長崎市の人口は、約25年後、約31万人にまで減少すると予測されているんだ。



人口減少

公共施設の
利用者の減少

なのに

公共施設の量は
そのまま

人は減っていくのに、施設の量はそのままだと使われない施設が増えてしまうね。

少子高齢化

医療・介護など福祉
にあてる予算の増大

なのに

古くなった公共施設の
修理に費用がかかる

働く世代の人口が大きく減っていき、税金(市の収入)が減っていくよ。



市の施設の半分以上が、築30年以上で老朽化しているよ。これからますます修理の費用がかかるよ。

どうしたらいいのだろう？

長崎市の公共施設の将来的な「**建て替え**」や「**改修**」にかかる費用平成27年度から**今後30年間**で、不足額は… **879億円**

このままでは
今の施設すべての建替え・修理はできません



ところで…

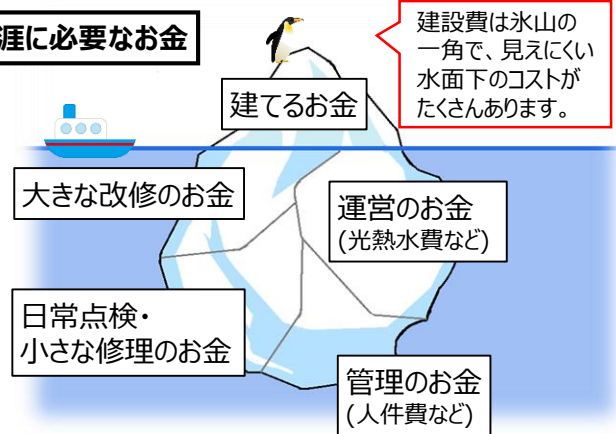
建物の生涯では、どんなお金がかかるかご存知ですか？

建物の生涯に必要なお金

建物にかかるお金は、初めに建物を建てるお金だけではありません。建てた後も、建物の管理・運営のための光熱水費や人件費、安全のための日常点検・小さな修理のお金が必要になります。

また、建物の老朽化に伴い、定期的に大きな改修のお金もかかります。一般的に、建物を建てるお金の4～5倍のお金が、建てた後にかかるといわれています。

建物のあり方を考えるときには、**建物の生涯にかかるお金全体を考える必要があります。**



グループでの話し合い

「**区内にある施設の課題や問題点等**」「**市の考える施設の基本的な配置に対する意見**」について考えよう

○三和地区の将来を考えるうえで、区内にある施設の課題や問題点等は何ですか。

○市の考える施設の基本的な配置に対して、どう思いますか。思い浮かんだことを書き出してもらい、班で話し合いました。

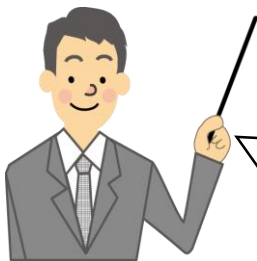


3 公共施設の上手な見直し方

また、どのように公共施設を見直していくかについても、お話ししました。

まず大切なことは…

**施設を見直すことは、
行政サービスを無くすことではありません。**



施設の見直しとは、あくまでも施設のあり方や使い方を見直すということです。仮に施設が減っても、そこで行われていた生活に必要なサービスを無くすことではありません。

<工夫した使い方の例>

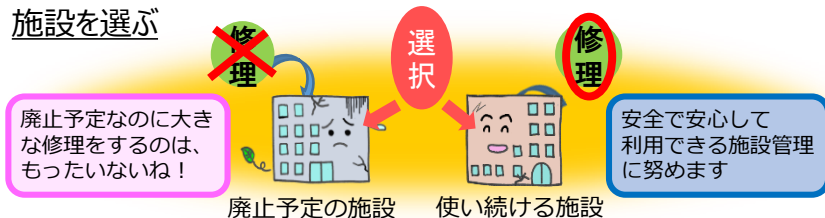


建物は減っても… サービスは残る

見直しの手法

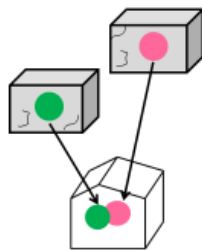
見直しには、大きく2つの手法があります。

手法1 施設を選ぶ



使い続ける施設と将来廃止予定の施設を分けて、使い続ける期間に合わせた適切な修理をします。

手法2 施設をまとめる

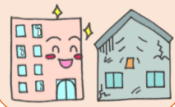


建物が減っても工夫することで活動は続けられ、新たな交流生まれます。

公共施設を見直す時の視点

公共施設の使い方を見直す時には、次の7つの視点で考えていきます。

建築年数や修理の状況



地震に強い建物か



よく利用されているか



使っていない部屋はないか



同じような使われかたをしている建物がないか



修理などにお金が掛かりすぎていないか



バリアフリーに対応しているか



グループでの話し合いの様子



4 長崎市全体の公共施設の基本的な配置の考え方

自主学习・研修施設



三和少年
交流センター

少子高齢化により児童生徒数も減少することが予想されますが、引き続き少年の健全育成と市民の生涯学習の振興を図るため、市民向けの体験学習の施設としての充実を目指します。



コミュニティ活動施設



●地域の皆さんが最も身近な場所で、地域の話し合いなど、さまざまな地域活動に利用する地域コミュニティの活動拠点は、概ね小学校区の範囲への配置を考えています。



蚊焼地区公民館



為石地区公民館



晴海台地区
ふれあいセンター



川原地区公民館

●多数の参加が見込まれる活動や行事などのため、小学校区の施設よりも広いスペースや調理室などの特定の設備が必要な施設については、小学校区に配置する施設を兼ねる形で、概ね中学校区への配置を考えています。



中学校区

小学校区

- 集会室
- 和室
- 給湯室

…等



- 集会室
- 会議室
- 和室
- 調理室
- 事務室兼図書室
- …等

●中学校区を超えた大規模な催しや講座等に対応できる広いスペースや、ホールなど特定の設備が必要な広域的に利用できる施設は、長崎市の都市計画上の地域拠点または交通の便の良い場所への配置を考えています。



三和公民館



●市域全体から利用される施設は、交通の便のよい都心部及び都心周辺部への配置を考えています。



スポーツ施設



スポーツ施設は、生涯にわたってスポーツに関わることで、健康で豊かな生活を送ることができ、また、競技力の向上を図ることで、地元選手が活躍できるよう、その活動の場として、重要な役割を担っています。



●地域の皆さんの身近なところには、気軽にスポーツに親しむことができる場として、公園機能の一つとして配置されているグラウンドを継続して配置する考えです。また、街区公園等の広場、ふれあいセンター等の軽スポーツ室の活用、学校の体育館などの開放を進めています。



●市内の中央、東部、南部、北部の4つの各地域内において、各地区からの交通の便が良い場所などには、生涯スポーツの推進や競技力の向上のために、スポーツ専用施設として、体育館や庭球場を配置する考えです。



三和体育館



●都心部及び都心周辺部には、九州大会や県大会などの大規模な大会に利用するためのスポーツ専用施設を配置する考えです。

4 長崎市全体の公共施設の基本的な配置の考え方（つづき）

子育て関連施設



子育て支援センター
「ぴっぴ」

子育て世代の支援の一つとして、保護者の子育ての孤独感や不安感の軽減を図るため、保護者が気軽に集い、相互に相談や交流等ができる場として、子育て支援センターの設置を進めており、「長崎市子ども・子育て支援事業計画」に基づき、市内16区域に設置する考えです。



市営住宅



蚊焼住宅



須浜第1住宅



年崎住宅



為石住宅



宮崎第1住宅



牟田尻住宅

●人口・世帯数が減少し、市営住宅の需要は減ると予想されます。そのため、セーフティネットとしての役割を担いながら、将来的には市全体の市営住宅の総戸数を減らしていく方針です。



公園



川原大池公園(総合公園)



元宮公園(地区公園)



三和記念公園(近隣公園)

公園には、「防災や避難等災害に対応できる機能の確保」、「複合遊具等を活用した魅力的な子どもの遊び場の創出」、「スポーツ施設等での利用」、「健康づくりのための機能の導入」など、多様なニーズへの対応が求められています。

市内における都市公園の市民1人当たりの標準面積は10平方メートル以上、市街地の市民1人当たりの標準面積は5平方メートル以上とし、都市公園の種類や目的及び誘致距離を勘案し、配置の均衡を図ります。また、人口減少や利用状況等、社会状況の変化に応じた用途全体の施設規模の見直しを進めていきます。

三和地区で施設を見直すときに大事なこと ～将来も持続可能な公共施設とするために～



今ある施設をそのまま維持していくと、多額の費用がかかります。また、三和地区でも、他の地区と同様に人口が減っていくことが予測されています。将来も持続可能な公共施設とするために「建替えなど、施設を見直すときには、適正な規模に見直す」ことが大切です。人口が減ることなどにより、利用率が低い、広い、大きいなどの施設は、多額の維持管理費が必要となりますので、必要な機能に見合った施設とすることが大切であると考えております。

★グループでの話し合いで出された主な意見

グループで話し合っていたいただいた内容について、班ごとに発表していただきました。

- ・為石公民館を利用してもらうようにするには、やはりふれあいセンター **1班** 化が必要ではないか。廃止になった保育所に場所を移転し、併せてふれあいセンターにしてはどうか。
- ・藤田尾地区と椿が丘地区に自治公民館があるが、費用面で運営が難しい。何とかならないだろうか。



- ・三和地域センターは、合併後、空いている部屋がいっぱいある。議場は倉庫になっているので、いろんな活用ができるのではないかと **2班**
- ・地域センターのある場所は利便性があるので、ここにいろんなものを集約してはどうか。
- ・住家復元館は使われていないので、資料などを公民館に移して、展示したらよいのではないかと。

- ・須浜、年崎、三本松などから避難所に向かうと、狭い道を上って下って、街灯もないところを行かなくてはならない。避難所を指定するときには、もっと地元の人の声を聴いて、もっとも適切な避難所・避難体制をつくるべきである。 **3班**
- ・予算がないのは承知しているが、予算がないなら既存の施設を少ない予算で有効活用してはどうか。



- ・洋式トイレやエレベーターがない施設がある。利用する方々も高齢化してきているので、早急に設置を検討してほしい。 **4班**
- ・健康づくりセンター3階の遊戯室が、今まったく活用がされていない。市民の皆さんに有効的に活用していただけるように、あり方を考えた方がいいんじゃないか。

- ・三和公民館のトイレは地下にある。車いすの方なんかは手すりにつかまって階段を降りないといけない。 **5班**
- ・三和中学校は築57年なので、為石浄水場跡に移転してはどうか。
- ・地区の公民館は、自治会等で重要な拠点となっているので減らせない。
- ・三和地区には病児保育がない。戸町まで行かないと預けられない。



【講評】（アドバイザー：首都大学東京 都市環境学部 讃岐亮 先生）

- 「有効活用」や「使い勝手」というのが皆さんに共通するキーワードだったんじゃないかなと思います。議場やサントピアなど、本当にいろいろな話がありましたが、それらがこの地区における、今の現状に対する問題提起になるかもしれないと感じました。
- 施設の維持管理等はお金がかかる問題なので、経営的な視点がすごく大事で、そこは皆さんご理解を得られているのかなと思います。その視点を次回も持ってきていただくと、より深い議論ができると思います。



次回の対話では・・・

長崎市から個別の公共施設の配置の考え方を示したうえで、その考え方に対して、地域にお住まいだからこその実情などを踏まえた、ご意見やアイデア等をお聞かせいただきたいと思っております。

第2回 日時：令和元年12月15日（日）13：00～15：00
場所：三和地域センター 大会議室

◆お問い合わせ：長崎市理財部資産経営室（☎直通：095-829-1412）